

# らしく

自分らしく、  
粋な暮らし

まちづくり・生涯学習情報誌

特集

P.1

## 広島流、

## エコでイコイ!

- 豊かな環境体験は里山再生から 山で『ひろしま自然学校』
- 川の街は自然の宝庫 川で『京橋川かいわいあしがるクラブ』
- グループ単位で環境学習 街で『こどもエコクラブ 地球ウォッチングクラブ』

●プラザ通信 P.5

●らしく情報の森 P.9

●ひろしま八区イベントガイド P.11

2007.12

寒葵号

Vol.19

寒くても青々とした葉を保っていることから、この名が付いたといわれる寒葵(かんあおい)。「若々しい」という花言葉のとおり、冬でも枯れない凛とした風貌には心惹かれるものがあります。私たちもこの花のように、毎日をハツラツと生きたいですね。

特集

# 広島流、

# エコでイコイ!



環境の世紀といわれるいま、わたしたちにてできることは何でしょう? 地球規模で考えるのも、この大きさに途方に暮れるだけ。広島だからできること。広島じゃないと見えないもの。すぐ近くの小さな環境やエコロジィーから事始め。そんなグループを紹介します。

何でもないように見える木も、「ホラ、妖精がいるよ!」森のなかで子どもは創造力豊かだ

## 森を育て、森と遊び

## 自然との生き方を学ぶ

## 『ひろしま自然学校』

日本の森の再生をテーマに開校

「みてみて、松ぼっくり!」  
「熊が栗を食べた跡があるよ」  
「えー!」

静かな森に響く子どもたちの歓声。相づちを打つようにチッチッと鶯の笛鳴きが聞こえてきます。

広島市内から1時間ほどの北広島町今吉田にある「森の学校」で、秋の休日に自然を満喫しようと16人の「生徒」が参加して「森のカフェ」というイベントが開催されました。

NPO法人ひろしま自然学校  
☎082-237-1163

労働金庫連合会の50周年記念事業として、日本の森を再生しようとする全国3地区で開校した「森の学校」。広島地区はNPO法人ひろしま自然学校の運営で、家族で森と遊ぶ「森のカフェ」の他、自分たちで育てた麦でパンをつくる「こむぎプロジェクト」、子どもたち対象の「わくわく探検隊」や「キッズキャンプ」、森の整備や施設づくりをする「平日隊」などの活動を行っています。

思い思いに自然と触れ合う

予想以上の寒さに広島市内からの参加者たちも慌てて上着を羽織り、小雨がパラつくなか「行は森の散策へ出発。木の実や葉っぱ、

森にはお宝がザクザク!



学校のシンボルである万代池。コガモの姿を見ることがもできます



キノコなど、午後のクラフトに使う素材を拾いながら、秋の森をのんびりと歩いていると、最初は家族だけであった会話が、自然に広がっていくから不思議です。「この水たまり何なん?」「こりゃあイノシシの風呂じゃ」と、親たちが知らないことは、おじいちゃん世代が教えてくれます。その傍らで山のお茶摘みに夢中になるお母さんたち、と思いいいに自然と触れ合っていました。

### 荒れた森を整備した手づくりの学校



皆さん大感激で、1時間半かけてつくった料理を、あつという間に平らけてしまいました。

「何もない山でも何かをみつけて遊ぶ子どもたちの創造力にいつも驚かされます」と話す島津さんファミリー(広島市東区)

湿地の自然を根付かせることが大丸さんたちの次なる目標となっています。

### 森と生きる人材の育成

運営するNPO法人ひろしま自然学校代表理事の志賀誠治さんは、「森を整備するだけでなく、再び荒れさせないためにその森を



見事に育った麦を収穫する「こむぎプロジェクト」のメンバー



「自然の魅力や大切さを子どもたちに伝えたい」という松原裕樹さん

活用することも大切」と話し、今回のような「森と遊ぶ」活動、平日隊のように「森を育てる」活動と同時に、「人を育てる」ことにも力を注いでいます。志賀さんとともにインストラクターとして参加する松原裕樹さんもそのひとり。

建築系の大学で環境デザインを学んでいた松原さんは、ひろしま自然学校のユースボランティア養成講座や体験学習に参加するうち、都市ではなく、自然の環境への興味が高まり、現在の仕事へ進路変更するに至りました。今では子どもたちも憧れる兄貴分的スタッフの松原さん。「都会の人はもちろん、地元の人にとっても、この学校を自分の町の自然を再発見する機会にして欲しい。これからは地元の人を講師に呼んで、地元を主役にした活動をしていきたい」と夢を語ってくれました。森を愛するたくさんの人の思いは確実に次世代へと伝わっているようです。

### 観音の森



### “Think Locally Act Globally” を実践する

### 『カンオンの森活用塾』

同じ森でも、こちらは街にある森。観音小学校(西区)の校庭の東側に植樹されたさまざまな樹木。広葉樹が葉を広げる初夏から秋にかけては、昼でも薄暗く、まさに森です。この街中の豊かな自然をなんとか生かしたいという学校や隣接する観音公民館の呼びかけに、13人のメンバーが集まりました。まずは森のことを知ろうと、専門家を招き、二本の木に名札をつける作業からスタート。同時に貴重な図鑑ができました。その後小学生のゆとり授業に使われたり、コンサートが行われたり、今年も、もみのき森林公園などへも出かけていくなど、幅広く自然や環境を学んでいる「カンオンの森活用塾」。子どもたちや地域の人がごく身近なところで自然の豊かさを感じる、とてもいい機会になっているようです。



みんなで作った森のピザ!形はふぞろいでも味は絶品

お昼からは秋の旬をたっぷり使ったピザとバスタブリュりにチャレンジ。体いっぱい使った子どもたちがピザ生地をこねれば、お父さんたちも慣れない手つきでバスタをゆでます。「こむぎプロジェクト」が今年収穫した麦を使った、ほんのり茶色いピザ生地にあふれんばかりの具を乗せて、平日隊のつくった自慢の石窯で焼き上げれば、たちまち良い香りが広がります。宅配では知ることができない、たくさんの人の思いが詰まったピザ。いつもと違う手作りの味に



「生活に身近な里山で森を整備し活用することが大切」と話すNPO法人ひろしま自然学校の志賀誠治代表理事



平日隊の大丸秀士さんは「ピオープに湿地の植物を定義させたい」と意欲満々



万代池の自然を活用してピオープづくりをする平日隊



今年も大きな実が成った柘榴(ざくろ)の木の下で語りう塾の皆さん



森の中のコンサートは毎回好評



特集

# 広島流、 エコでイコー!

## 自然護岸のアシ原は 川と人がつながる場所 『京橋川かいわいあしがるクラブ』



水にちゃんと浮かんでいるよ!アシの力ってすごい! ※両端に生えている緑色の草がアシです

### 山や海ではなく生活の すぐそばにある自然

京橋川が流れる、中区白鳥九軒町の白潮公園。ここには広島市街でも珍しい貴重な干潟やアシ原のある自然護岸があります。桜が有名なこの辺りは、広島城下の足軽が住んでいた歴史ある地域です。

京橋川かいわいあしがるクラブはこの白潮公園を主な活動の場として、「川に近づき、川を利用し、川で遊び、美しい川を創る」をモットーにアシ原の清掃、保全をしながら、アシ舟づくり、被爆桜の植樹、自然観察、干潟でのとんど祭りをしている市民グループです。中央公民館と共働して、子どもから大人まで地域の人、ボランティアみんなどでぎやかに活動しています。活動日には、子どもたちも手伝うあしがるオープンカフェ



出来上がったアシ舟を持って、いざ京橋川へ



京橋川かいわいあしがるクラブ代表 山本恵由美さん  
「みんながわいわい集まれる自然のアシ原を楽しみたいですね。地域の学校や若い人たちに子ども参加してもらいたい」と活動に寄せる想いは強い

### アシの力を最大限に生かす

アシには、1本で年間2トンもの水を浄化する能力があるそうです。定期的に手を加えることで、その生長、浄化作用を促進し生き物にとっていい環境をつくり出します。そのため、あしがるクラブでは晩秋にアシを刈り、乾燥させ、初夏にそれを舟をつくり、最後にはたい肥にして循環させているのです。

白潮公園そばの干潟には、水鳥の足跡やカニの住みかが見られます。ここにはアカテガニ、アシハラガニ、チゴガニ、ヒライソガニ、ヤマトオサガニなどたくさんのカニが生息しているそうです。川べりはそよそよとアシの穂が風に揺れ、たくさん生き物を見つけたことが嬉しい場所です。



アシ舟づくり。大人も子どももみんな力で合わせて

「広島駅から近いところにこんなに生き物がいるんです。自然がすぐそばにあるというのは意外でしょう。生活の中にある自然に気がついて、環境問題を自分の問題としてとらえて関わる事が大切だと思えますね」とクラブ代表



京橋川かいわいあしがるクラブ  
☎082-221-5943 (中央公民館)

表の山本恵由美さんは言います。  
「今のまちの暮らしには、お互いが遠慮して、づくられた『世代間交流の場しかない』と山本さんは感じています。活動を通してアシ原を子どもから高齢者までみんなが集まれる、地域のコミュニティの場にしたいと奮闘中です。『高齢者は多くの経験や知識を持っていて。そして若い人たちにもどんどん参加して担い手になってほしい。ともに生きた体験をすることで、子どもはどんな気がつき学んでいきますから』」



写真上:白潮公園に植えた被爆桜。しっかり大きくなって子どもたちの平和への願いも一緒に育ちます  
写真下:とんどは近所のおじさんおばさん、幼稚園児たちも遊びに来ます

## 街の中で自然や環境を学び遊ぶ 子どもエコクラブ

### 『広島地球ウォッチングクラブ』



広島地球ウォッチングクラブ事務局  
☎082-504-2185  
(広島市環境局 資源・エネルギー・温暖化対策部)

台風で倒れても力強く生きる“どんぐん”の話を神妙に聞く子どもたち



「どんぐりはお母さんへのおみやげ。食べたらくりみたいにおいしかった。また来たいです」大塚海人くん(中島小5年生)

葉書の語源になったタラヨウの葉に観察会の感想を書く



「海や山はあまり行かないので今日は楽しかったです。どんぐりでネックレスを作ったの」住谷絹ちゃん(白島小2年生)

### 歩いてみなくちゃ わからない環境問題

子どもでも気軽に登れる二葉山は、シリブカガシの原生林が広がるなど、都会と隣接しながら自然の宝庫として市民に親しまれている場所です。木の下のほうにある葉っぱは、葉先の分かれる数が多くなるカクレミノは愛称がジャンケンの木。台風で倒れたにもかかわらず、3分の1の根を力強く大地に張り太陽に向けて伸びる愛称どんぐんの木。そしてわくわくする蝶の道の話。まるでキラキラ光る宝箱のようなガイドさんの話を聞きながら、子どもたちは難なく山頂へ。その後の自然の中での遊びや、お弁当の時間もあつという間に過ぎていきます。

車で何時間もかけて遠出しなくても、自然のしくみや不思議を感じられる場所が身近にある広島。でもそれは触れてみないとには実感できません。クラブの皆さんは、これからもたくさん魅力を発見していくでしょう。皆さんも参加してみたいかがでしようか。

### 広島地球ウォッチングクラブ登録クラブ 『ふなにしEcoな探検隊』



このクラブは「船越のフィールドを使ってエコロジーを考えよう」と船越公民館を拠点に活動しています。小学4年生から6年生までの児童を対象に毎年隊員を募り、身のまわりの街や川、海などを舞台に、魚釣り、キャンプ

&クッキング、リサイクル、ウォークラリーなどさまざまな活動を行っています。なかでも毎年恒例となっているのが、「的場川の水質調査」。見つけた生き物をスケッチするとともに、COD(汚れ度合い)やpH(酸性度)などを調べます。今年12月1日に広島駅前地下広場で発表会を行う予定です。「小さいウナギがいたのはびっくり」「沢ガニがいっぱいた」など身近な自然に感動する一方で、「ゴミが多かった」など、環境に負担をかけないようにすることの大切さを、子どもたち自身も体験する中で実感しています。



上流域で生き物をさがしました



学習したこと、感じたことをそれぞれ発表

### 気軽に環境を考えよう!

「わあ、おいしい!」「食べれるんじゃないね。」

次々と子どもたちの歓声があがります。10月21日、秋晴れの空が近い二葉山(東区)の山頂広場で、用意された焼きドングリを頬張る子どもたち。一方で、拾ったばかりのどんぐりを使ってコマやアクセサリーづくりを楽しむ子どもたちもいます。「広島地球ウォッチングクラブ」のこの秋の活動は二葉山自然観察会。3歳から高校生まで、子どもたちの表情は、

### 誰もが実を楽しそうなのが印象的

「広島地球ウォッチングクラブ」は、環境省がすすめる「子どもエコクラブ」事業の広島市における活動母体です。子ども2人以上とサポーターする大人1人が集まれば簡単に登録することができることから、昨年度は全国で約4800のクラブが活動しました。広島市でも52のクラブが登録し、それぞれが身近なところでさまざまな体験を通して環境を学んでいます。



ドングリの試食。これが意外においしいのです!